

高額療養費の見直しについて

後期高齢者医療制度における高額療養費の上限額が変更されました。

8月診療分
からの変更です。

所得区分	課税所得	窓口負担割合	変更後の自己負担上限額			食事代 ^{※2} (1食あたり)
			外来のみ (個人単位)	外来+入院 (世帯単位)	年間上限	
現役Ⅲ	690万円～	3割	270,300円+(医療費-901,000円)×1% ^{※1}		1,680,000円	550円 ^{※3}
現役Ⅱ	380万円～		179,100円+(医療費-597,000円)×1% ^{※1}		1,110,000円	
現役Ⅰ	145万円～		85,800円+(医療費-286,000円)×1% ^{※1}			
一般Ⅱ (課税所得28万以上等)		2割	22,000円 (年間上限216,000円)	61,500円 ^{※1}	530,000円 ^{※5}	
一般Ⅰ (課税所得28万未満等)						
非課税世帯	低所得者Ⅱ	1割	11,000円 (年間上限96,000円)	25,700円 ^{※1}	290,000円	270円 ^{※4}
	低所得者Ⅰ		8,000円	15,700円	180,000円	130円

※1 過去12カ月以内に限度額を超えた月が3回以上あった場合、4回目以降は限度額が異なります。

※2 療養病床は金額が異なります。

※3 難病等、一部例外があります。

※4 過去12カ月で90日を超える入院があった場合、申請により1食220円となります。

※5 年収約200万円未満に該当する場合は、年間上限410,000円を適用し、令和9年8月以降に償還払いとなります。

☎ 高額療養費制度見直しコールセンター(厚生労働省)
(☎0120-617-111)9時～18時(日曜、祝日、年末年始除く。令和9年3月まで)

(保険年金課)

令和9年2月20日(土) 開催決定!! 全国藩校サミット大和郡山大会

全国の藩校所在地において20年以上にわたり開催されてきた「全国藩校サミット」。今年度は大和郡山で開催!!

「藩校」は武士の子どもたちが通う学校

江戸時代に各藩が、藩に仕える武士の子どもたちを教育するために設立した学校です。藩校は、藩を担う人材を育成し、藩政の運営と地域社会の安定を支える力を養うことを目的とされていました。

「文武両道」が藩校での教育の目標

藩に仕える武士である藩士は、当時、「戦う人」から「治め支える人」へ、平時の統治を担う人材へと役割を広げていきました。そんな役割を果たせる人を育てるために、藩校では剣術や弓術などの武芸のほか、漢学、医学、算法など学問も教えていました。

「人材育成」に活かせるものを学ぶ

江戸と令和、時代は異なりますが、何を伝え、何を教え、どんな人を育てるのかという考え方が、教育において大切なことは変わりません。藩校サミットは、学校、家庭、職場、地域社会など、様々な環境で課題となる人材育成に活かせるものを学ぶ機会となります。



(昨年、明倉市で実施されたサミットで、旧藩主が一堂に会する様子)

☎ 第23回全国藩校サミット大和郡山大会実行委員会(まちづくり戦略課 内線733)

流域治水

みんなで取り組む

流域治水とは

地球温暖化に伴う気候変動等の影響による豪雨災害が頻発し、多くの被害が発生しています。対策として河川堤防などの整備を一層加速するだけでなく、上流の山間地域や下流の氾濫地域において、河川管理者や下水道管理者、民間企業、住民などあらゆる関係者が協働して水災害対策を実施することをいいます。

なぜ流域治水が必要?

①全国的に激甚化する豪雨災害

気候変動による強雨の発生件数が全国的に増加傾向にあり、1時間あたりの雨量が50ミリを超える発生件数は、50年前の約1.5倍に増加

②水害が発生しやすい大和川流域の特徴

大和川中上流域(奈良県域)は盆地のため勾配が緩やかで、亀の瀬狭窄部に向けて多くの川が1本に集まる

流域対策3本の柱

「流域治水」の実践に向け、令和4年5月に国・県・流域内の市町村が共同して「大和川流域水害対策計画」を策定し、流域対策を推進しています!



氾濫をできるだけ防ぐ減

被害対象を減少させる

被害の軽減復旧復興

市の取組紹介

貯留機能保全区域^{*}の指定

番条地区の約3.6haが令和6年12月24日に市としては全国で初めて区域指定され、令和8年1月23日に約6.1haが追加で区域指定されました。

※貯留機能保全区域

河川沿いの低地など、その土地が持つ貯留機能を将来にわたって保全するため、土地所有者に同意の上で、関係市町村長の意見聴取のもと、知事が指定するもの。

ワンコイン浸水センサ実証実験^{*}に参加

市内の浸水しやすい5箇所に浸水センサを設置しています。浸水センサのリアルタイムの検知状況は、「浸水センサ表示システム」で閲覧することができます。

※ワンコイン浸水センサ実証実験

浸水の危険性がある地域に手頃な価格の小型センサを設置し、リアルタイムに浸水の有無を把握することを目的とする実証実験を国土交通省が実施しており、当市も令和7年度より参加しています。なお、実証実験として試行的に実施することから、異常なデータが表示されるなどの不具合が発生する可能性、予告なく変更または終了する場合があります。



家庭でできる流域対策

雨水タンク
の設置



降雨が一気に河川や水路に流入することを抑制します。貯めた雨水は生活用水として利用が可能です。※雨水タンク設置に補助金があります。



流域治水は行政だけでなく、

流域のみなさんの協力が必要です!

ハザードマップ
の確認



身のまわりの水害の危険性や水害時の危険性を確認しておきましょう。※市では「大和郡山市総合防災マップ」を作成しています。



雨の日にお風呂の水を流さない

お風呂などの家庭排水も最終的に川へ流出します。大雨が降る日にお風呂を流さないことで川へ流れ出る水を減らすことができます。

側溝や排水口の清掃

雨は排水路を流って川へ流出します。落ち葉などがたまり、雨が流れていけません。側溝や排水口の清掃をしておきましょう。

避難場所を
家族と話し合う

避難に備えた計画を立てて、避難ルートや避難場所、持ち物など、いざという時、すぐに逃げられるように家族と話をしておきましょう。

☎ 建設課 治水係(内線613)